

私達の地域活動

— 何でも参加・何でも挑戦 —

北浦漁協女性部
部長 中西 ツヤ子

1. 地域の概要

北浦町は、県の最東北端、日豊海岸国定公園のほぼ中央に位置し、昔から漁業を中心に発展した町です。また、変化に富んだリアス式海岸は、その美しい景観から「日向松島」と呼ばれています。

2. 漁業の概要

私の所属する北浦漁協は、昭和40年に市振、宮野浦、古江の3漁協が合併して誕生した漁協です。正組合員606名、准組合員97名、主な漁業は、巻き網、養殖、底引き、磯建網、定置網等で、14年度の水揚げは、43億1千万円となっています。

3. 研究グループの組織と運営

私達JF女性部は、昭和28年3月に県下で初めて誕生した女性部（当時は婦人部）です。現在、部員は340名、地域婦人会・JA女性部・地区婦人会、そしてJF女性部と、いくつもの組織に属した団体として、市振、宮野浦、阿蘇、直海と4つの地区に分かれて地区毎に活動しており、全体の取組としては貯蓄運動を主に行っています。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

私達女性部は、これまで先輩方の伝統を継承しつつ、地域と密着した活動を行ってきました。その中で、地域の皆さんとの日頃のコミュニケーションを通して、活動が浸透し、より一層協力が得られるようになったこと、「何でも参加・何でも挑戦」を合言葉に、地域婦人会等との交流を交え、実践してきた市振地区の活動について紹介します。

5. 研究・実践活動状況及び成果

私が住んでいる市振地区には、長年、漁業に従事し、漁業の基礎を培ってきたお年寄りの方々への感謝と労をねぎらう場として、60年以上続く、伝統ある敬老会があります。

私達女性部は、この敬老会に参加するため、町主催の婦人学級で日本舞踊を習っています。そして、趣向を凝らした踊りや歌を披露し、裏方としては、配膳のお手伝いをし、会を盛り上げています。

本番を前に3ヶ月前から練習を開始しますが、練習が思うようにならず、行き詰ったり、落ち込んだりした時、先輩方から心温まる差入や励ましの言葉をかけて頂き、大変勇気づけられました。

当日は、朝早くから舞台化粧、お膳配置と慌しく時間が過ぎていきます。私達の高ぶ

る気持ちを知ってか知らずか、主役であるお年寄りの方々は、11時開演の会場に、朝6時過ぎから次々に座布団を抱え、さじき取りに来られます。9時に入場されて、横になり時間がくるのを楽しみに待っている方もいらっしゃいます。10時になるとお年寄りの方々は全員集合です。

そんな光景を見ると「こんなにも、今日のこの日を楽しみにして待っておられたのか」と今までの重荷がスーッと軽くなり、「よーし！今日は、一致団結して頑張るぞ！」役員一同で気合を入れ合い、また、自分にも「ファイト！ファイト！」とハッパをかけると、お腹の底から力が湧き上がってきます。

敬老会終了後、会場の出口で、お年寄り一人一人と握手を交わすと、力強く握り返し、「ありがとう！ありがとう！今年の敬老会が一番良かった」と、涙を流しながら感謝されます。この瞬間、3ヵ月間の練習の苦労は吹っ飛んでしまいます。

翌日は、疲れを癒す間もなく、施設入所で出席できなかったお年寄りに慰問に行きました。不自由な手でテーブルを叩いて喜ぶおばあちゃん。音楽に合わせて身体を左右に動かし、ニコニコするおじいちゃん。「ありがとう！ありがとう！」と言っているのでしょう、口をパクパク動かし、涙を流すおばあちゃん。着物姿での踊りに注がれるお年寄りの眼差しが、何よりも印象的でした。好評だったのか、クリスマス会にも要請を受け、行ってきました。

これからも、お年寄りの方々が喜んで頂ける活動を続けていきたいと思っています。環境保全活動としては、「高島キャンプ場清掃」を行っています。

「高島」とは、国歌で知られるさざれ石とピロウの北限地である無人島で、年中、釣り客やサーファーが、また、夏場は日帰りで磯遊びに来る家族づれが訪れる島です。

6年前、この高島に打ち上げられるゴミをボランティアで清掃して欲しいと、町社会福祉協議会から老人クラブに依頼がありました。老人クラブでは人数も限られているので、女性部合同でお願い出来ないかと要請があり、砂浜・浜辺の自然環境を保全するための活動として、合同で行うようにし、毎年6月に実施することになりました。

当日は、老人クラブからお弁当・飲物を頂き、清掃終了後には、参加者全員でアサリ獲りなど磯遊びをして楽しい1日を過ごします。

この清掃活動を始めたことにより、老人クラブと女性部との交流の場が持て、同時に、島をきれいにすることで、レジャー客もゴミを持ち帰るようになりました。

ボランティアとレクリエーションを兼ねた、一石何鳥にもなる環境保全活動を大事にしていきたいと思っています。

その他、10年前からJA女性部と合同で廃油石けん、ゴキブリ団子作りを行っており、去年からはEM菌講習会を会合終了の都度開催し、地域の人達に広めております。使用している人から「食器洗いや衣類の汚れ、子供の靴などよく落ちる」「ゴキブリがいなくなった」「EM菌でトイレの臭いがなくなった」「床を磨くとワックスをかけたようになる」と好評を得ています。

女性連で提唱している「子供をみつめる日の運動」の取組としては、魚食普及も兼ね、8年前から地域婦人会の依頼で、地元小学校に講師として出向き、その日水揚げされた魚で、干物作りを体験してもらっています。最初は、ぎこちない包丁さばきですが、段々と上手になり、さばいた魚に私が点数をつけると、「僕、何点」「私、何点」と競い合う

ように僕も私もと寄って来て、子供とのふれあいが深まっていきます。次の日、出来た干物は持ち帰ってもらいますが、父兄から「魚料理を手伝うようになった」「子供が魚に興味を示すようになった」とうれしい反響が出ています。

女性部全体で取り組んでいる貯蓄運動は、年4回地区内・外を役員総出で戸別訪問をしています。個人はもとより、企業からもご協力を頂き、年間目標額2億8千万円に対して、毎年、8億円近くの実績を挙げております。この貯蓄運動は、3漁協が合併した昭和40年からの取組で、今では地域住民に浸透し、協力的になっています。これも先輩方の長年の努力の賜物だと思っています。

活動をする上で資金が必要ですが、私達の女性部では、貯蓄運動に対する漁協からの奨励金、町からの委託によるゴミ袋販売手数料、町の水道・集落排水の集金手数料などで賄ってきました。しかし、水道・集落排水の支払は口座振替が普及し、集金件数が少なくなったため、手数料収入も減少し、活動資金に赤字が出るようになりました。

そこで、活動資金を捻出するために、年2回、3月、10月の第2日曜日に漁協や青壮年部、商工会といった複数の団体からなる町づくり実行委員会で開催している「海鮮！山鮮！きたうら市！」に出店することにしました。この市は、人口4,500人の北浦町に、12,000~15,000人ほどのお客さんが町、内外からお見えになる一大イベントです。昨年の10月、今年3月と、「うどんコーナー」を出店し、だしやうどんにのせる揚げ身は、地元の魚を利用して販売しました。当日は天候にも恵まれ、たくさんのお客さんに食べて頂き、予想以上の収益を上げることが出来ました。

この出店では、自分達で行動を起こせば活動費を捻出することが出来るということがわかり、大きな自信となりました。

しかし、この様に、敬老会、環境保全活動、貯蓄運動と色々な行事を実施するには、家族の理解・協力が必要となります。そこで、行事や会合に出席しやすいように、また連絡漏れがないようにと、私が婦人会会長になった2年前から「女性部便り」を発行することにしました。役員の人からは「家族の理解と協力を得られるようになった」「便りが届くのを楽しみにしている」という声も聞かれ、今後の活動をする上で嬉しい効果が出てきております。

この様に、「何でも参加、何でも挑戦」の合言葉のもと、様々な取組や活動により、役員同士がしっかりとまとまり、前向きな姿勢が自ずと生まれてきたことは、最高の収穫であり、また、その後の私達の活動に対して、色々な協力が得られるようになったことは嬉しいことです。そして、お年寄りの方々からは、女性部の皆さんに対して、気さくに話しかけて頂けるようになり、地域密着を実感しています。

6. 今後の課題や計画と問題点

今、私が思い描いていることですが、加工グループを設立、地元の魚を最大限利用した加工品開発、販売等に取り組みたいですと思っています。

また、よそから来た人から「地元の魚料理を食べさせてくれる食堂はありませんか」と聞かれることがあります。そこに行けばその土地の料理が安くで食べられる、そんな食堂を私達が出来たらと考えているところです。

漁協では、4月から夏場にかけてコバイワシが獲れ、朝7時半からの入札に県外から

も加工品業者が来られますが、朝食を済ませていないのか、パンと牛乳を食べている光景をよく見かけます。こういった人たちに朝食を提供できる市場食堂も兼ねられたらと思っています。

私の家もカンパチ主体の養殖業を営んでおり、網替え、網洗い、網の補修と昼間は養殖業に従事しています。活動の中心となる役員さん方も水揚げされた魚の選別や箱詰めといった仕事をしながら、限られた時間の中での活動ですが、冒頭ご紹介申し上げたとおり、私達JF女性部は、いくつもの組織に属した団体です。その特性を生かして、これからも、漁協や各種団体と連携を図りながら、「何でも参加・何でも挑戦」を合言葉に、JF女性部の原点である地域を、そして漁業を盛り上げていけるように頑張りたいと思っています。

地域活動は、目に見える効果がすぐに出てくるものではありませんが、これからも地域や先輩方の伝統を継承しつつ、地道に続けていきたいと考えています。

JF北浦女性部

概要

- ◆設立 昭和28年3月
- ◆部員数 340名(平成15年4月現在)
- ◆役員数 37名(部長1、副部长4、監事2、班長30)

◆年齢別構成 (単位:名)

20才代	30才代	40才代	50才代	60才代	合計
38	80	121	58	43	340

◆特性

地域婦人会・JA女性部・地区婦人会・JF女性部の4つの組織からなる団体

秋はふたらずき粟の実 萩の花
中秋の名月もずが 日増しに
秋らしくなってきました
平素より婦人会活動にはご協力いただき
役員一同深く感謝申し上げます

九月十五日 市振敬老会
九月廿日 寿園敬老会

お年寄りの、これまでの労をねぎらい
ひとりの楽しみ場の提供できた事
またお年寄りの方から喜ばれた事に
大変感謝とそれにはみなさんの大きな
後援がわたがらだと思っております

舞踊教室 敬老会 練習日には
心暖まるお茶の差し入れとしていただき
厚く御礼申し上げます

あなたが、あなた、あなた
あなたが見てくれたから
大切なあなた、ありがとう

市振婦人会